

令和7年度 墨田区立本所中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 齊藤 伸治

学校教育目標	心豊かな、たくましい本中生の育成
目指す学校像	品格と活力がみなぎる、文武両道の学校
目指す生徒像	知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性をもつ生徒
目指す教師像	高い使命感をもち、生徒の成長に貢献する教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容  
 (1) 墨田区子ども条例に基づいた、生徒の意見の尊重及び保護者・地域との連携の推進  
 (2) 安全・安心の基盤に立った教育環境の整備  
 (3) 生徒育成の基本的な考え; ①確かな学力の定着と向上 ②豊かな心の育成 ③生徒の体力向上と健康増進  
 ④特別な支援・配慮等を必要とする生徒への教育  
 (4) 学校組織の一層の推進

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
各教科指導等	確かな学力を育てるための分かりやすい授業を実施する。 ○個別最適な学習と協働的な学習の中で学習内容のアウトプットを行わせ、学力の定着を図る。	○タブレット端末の活用等により、毎回の授業内容に関するアウトプットを授業及び家庭学習で実施する。	4	授業内容のアウトプットの実施率90%以上	4	4	教アで「アウトプットが学力の定着につながった。」等の肯定的な回答が90%以上	4	生徒に思考をさせる時間の設定やタブレット端末を活用したアウトプットを中心とした授業展開を全教科で行うことができ、学力の定着を図ることができた。また、授業内容の理解に関する生徒アンケートでは、肯定的回答が92%となった。	A	A	GIGAスクールで各自1台のタブレットを渡した関係もあり、着実に学力は向上していると推測できる。
			3	授業内容のアウトプットの実施率80%以上		3	教アで「アウトプットが学力の定着につながった。」等の肯定的な回答が80%以上					
			2	授業内容のアウトプットの実施率70%以上		2	教アで「アウトプットが学力の定着につながった。」等の肯定的な回答が70%以上					
			1	授業内容のアウトプットの実施率70%未満		1	教アで「アウトプットが学力の定着につながった。」等の肯定的な回答が70%未満					
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。 ○3年間の系統的なキャリア教育を柱に、生徒のキャリア形成能力を育成する。	○キャリア教育全体計画に位置付けた校外学習、かしわ祭（文化祭）、職場体験等の教育活動について、地域の方々との連携の下で実施する。	4	キャリア教育年間指導計画の実施率90%以上	4	4	教アで、「教育活動がキャリア形成能力の育成につながった。」等の肯定的評価が100%	4	年間計画通りにキャリア教育を進めることができた。また、キャリア教育等に関する生徒アンケートでの肯定的回答が97%となった。特に、第2学年は職場体験学習や進路希望校調べ等を重点的に行い、キャリア形成能力の向上を行うことができた。	A	A	・学校行事の開催時期は的確な時期に行われていると思う。 ・生徒に多様な選択肢があり、それぞれに価値があることを理解して、選択ができる人間になることを望む。
			3	キャリア教育年間指導計画の実施率80%以上		3	教アで、「教育活動がキャリア形成能力の育成につながった。」等の肯定的評価が90%以上					
			2	キャリア教育年間指導計画の実施率70%以上		2	教アで、「教育活動がキャリア形成能力の育成につながった。」等の肯定的評価が80%以上					
			1	キャリア教育年間指導計画の実施率70%未満		1	教アで、「教育活動がキャリア形成能力の育成につながった。」等の肯定的評価が70%未満					
	教員の指導力・授業力の向上のために組織的取組を行う。 ○コーチング指導を中心に、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。	○全教員がコーチング指導に関する校内研究授業を実施する。	4	コーチング指導中心の個別最適な学びや協働的な学びの実施率80%以上	4	4	教アで「研究授業により個別最適な学びや協働的な学びの充実につながった。」等の肯定的な回答が90%以上	4	コーチング等の指導を中心に授業展開することで個別最適な学びや協働的な学びを充実させることができ、生徒アンケートの「積極的に授業を受けている」の肯定的回答が91%となった。生徒の興味関心を高め、主体性を育てる授業改善は、継続課題である。	A	A	・生徒が主体的に学ぶように、授業導入時の発問の工夫や思考をたくなるような補助教材の活用を行う。 ・「めあて」や「振り返り」の掲示物を作成し、課題把握や振り返りの時間を確実に実施することで、課題解決型学習を徹底する。
			3	コーチング指導中心の個別最適な学びや協働的な学びの実施率70%以上		3	教アで「研究授業により個別最適な学びや協働的な学びの充実につながった。」等の肯定的な回答が80%以上					
			2	コーチング指導中心の個別最適な学びや協働的な学びの実施率60%以上		2	教アで「研究授業により個別最適な学びや協働的な学びの充実につながった。」等の肯定的な回答が70%以上					
			1	コーチング指導中心の個別最適な学びや協働的な学びの実施率60%未満		1	教アで「研究授業により個別最適な学びや協働的な学びの充実につながった。」等の肯定的な回答が70%未満					
生活指導等	いじめ、不登校の予防や解決に向けた組織的取組を行う。 ○校内委員会を軸として組織的に対応する。	○毎月定期的及び臨時のいじめ、不登校に関する校内委員会で予防策や解決策を策定し、学校全体で実行する。	4	校内委員会で策定した対応の実施率100%	4	4	教アで「校内委員会により迅速で組織的な対応が行えた。」等の肯定的な回答が90%以上	4	毎月のいじめ・不登校対策委員会や臨時委員会等の校内委員会で、策定した対応を確実に実施することで、組織的な対応やいじめ等の未然防止を行うことができた。「安心する環境づくり」に関する生徒アンケートの肯定的回答が96%となった。	A	A	学校運営協議会でも、いじめや不登校の数は発表されていて、個々の状況を見ながら対応していると考えられる。
			3	校内委員会で策定した対応の実施率90%以上		3	教アで「校内委員会により迅速で組織的な対応が行えた。」等の肯定的な回答が80%以上					
			2	校内委員会で策定した対応の実施率80%以上		2	教アで「校内委員会により迅速で組織的な対応が行えた。」等の肯定的な回答が70%以上					
			1	校内委員会で策定した対応の実施率70%以上		1	教アで「校内委員会により迅速で組織的な対応が行えた。」等の肯定的な回答が70%未満					
	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育に取り組む。 ○特別の教科道徳を中心に学校全体で規範意識や思いやりの心を育む。	○生徒アンケート等により心の状況を把握し、心に寄り添う内容の道徳の授業を展開する。	4	特別の教科道徳等の道徳教育年間計画の実施率90%以上	4	4	教アで、「学校全体の取組が生徒の心の育成につながった。」等の肯定的評価が90%以上	4	年間計画通りに学習を進め、基本的な生活習慣や人間関係づくりのための教育を実施することができた。また、道徳の授業に関する生徒アンケートでの肯定的回答が92%、保護者アンケートでの肯定的回答が92%となった。	A	A	生徒が来客者に対する挨拶や町中での行動は、学校の指導のおかげで、良好だと思ふ。 ・生徒の実態を踏まえて、心に寄り添う内容の道徳科授業を、各学年月1回程度実施していく。
			3	特別の教科道徳等の道徳教育年間計画の実施率80%以上		3	教アで、「学校全体の取組が生徒の心の育成につながった。」等の肯定的評価が80%以上					
			2	特別の教科道徳等の道徳教育年間計画の実施率70%以上		2	教アで、「学校全体の取組が生徒の心の育成につながった。」等の肯定的評価が70%以上					
			1	特別の教科道徳等の道徳教育年間計画の実施率70%未満		1	教アで、「学校全体の取組が生徒の心の育成につながった。」等の肯定的評価が70%未満					
	危機回避能力の育成や生徒の安全を確保するための取組を行う。 ○毎月の安全指導を中心に、生活安全、交通安全、情報安全、災害安全の指導を行う。	○安全指導年間計画並びに東京都・墨田区施策のセーフティ教室等の安全指導を専門機関等と連携して実施する。	4	年間指導計画の各安全指導の実施率90%以上	4	4	教アで、「安全指導が生徒の危機回避能力向上につながった。」等の肯定的評価が90%以上	4	年間計画通りに安全指導を進め、危機管理能力を高めることができた。また、安全指導等に関する生徒アンケートでの肯定的回答が97%、保護者アンケートでの肯定的回答が80%となった。	A	A	災害時に地元にいる中学生は、救助者ではなく支援者になると思う。危機管理能力の向上はもちろんだが、災害時に支援者になることを指導して貰いたい。 ・本校を取り巻く環境や実際の災害を想定した避難訓練になるよう、災害の想定や避難方法の見直しをし、生徒の危機回避能力のさらなる向上を図っていく。 ・安全指導等の取組を学校ホームページ等で紹介し、保護者や地域への情報提供を行う。
			3	年間指導計画の各安全指導の実施率80%以上		3	教アで、「安全指導が生徒の危機回避能力向上につながった。」等の肯定的評価が80%以上					
			2	年間指導計画の各安全指導の実施率70%以上		2	教アで、「安全指導が生徒の危機回避能力向上につながった。」等の肯定的評価が70%以上					
			1	年間指導計画の各安全指導の実施率70%未満		1	教アで、「安全指導が生徒の危機回避能力向上につながった。」等の肯定的評価が70%未満					

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
	学校経営方針に基づいた、組織的な教育活動や学校運営を行う。 ○管理職・主幹教諭の会議を中心に組織的に学校経営方針の実現を図る。	○毎週の経営会議（管理職・主幹教諭）で課題の改善策等を打ち出し、月1回の企画会議（分掌主任・学年主任等）で具体策を決め、翌週の職員会議で周知して実行に移すサイクルを確立する。	4	学校経営サイクルの実施率100%	4	4	教アで、「学校経営サイクルで組織的な教育活動等が充実した。」等の肯定的回答が90%以上	4	学校経営サイクルを実施することができ、組織的な教育活動が行えた。教職員アンケートでの肯定的回答が100%であった。現在の業務において効率化や短縮化できることを検討し、ライフ・ワークバランス推進していく。	・学校経営サイクルを実践し、Teamsを活用して効率的に運営を行うことで、会議の回数を減らし、教職員の働き方改革を実現させる。 ・教育活動の起案の際には、生徒の意見を踏まえた資料とともに提案をさせ、生徒の意見を反映していく。また、事後の振り返りやアンケート等を実施して、次年度の活動に生かしていく。	A	A	・自己評価が高いので、問題ないのではないかとと思う。 ・先生方の基本的な仕事の量は変わっていないと思うので、結果としてサービス残業の温床とならないようにお願いしたい。
			3	学校経営サイクルの実施率90%以上		3	教アで、「学校経営サイクルで組織的な教育活動等が充実した。」等の肯定的回答が80%以上						
			2	学校経営サイクルの実施率80%以上		2	教アで、「学校経営サイクルで組織的な教育活動等が充実した。」等の肯定的回答が70%以上						
			1	学校経営サイクルの実施率80%未満		1	教アで、「学校経営サイクルで組織的な教育活動等が充実した。」等の肯定的回答が70%未満						
学校の管理運営	生徒の意見や実態に合わせた教育目標の設定及び学校評価を適切に行う。 ○生徒アンケートや保護者・学校運営協議会による学校評価等を踏まえて教育目標等を適切に見直す。	○年間に位置付けた、生徒が回答する学校生活や授業に関するアンケート、学校評価における保護者アンケート、学校運営協議会の評価・意見等により教育目標等の見直しを図る。	4	アンケートや学校評価の各結果を踏まえた検討の実施率100%	4	4	教アで、「アンケートや評価が教育目標等の改善につながった。」等の肯定的回答が90%以上	4	生徒や保護者アンケートを実施することで、学校の改善点を把握でき、次年度に向けて教育活動を見直すことができた。教職員アンケートでの肯定的回答は100%となった。	・学習や行事等の学校生活について、生徒が主体的に取り組んだ活動を年3回の学校運営協議会やPTA実行委員会で地域や保護者に伝え、評価・意見等により、見直しを図る。	A	A	学校運営協議会でも、報告されている。生徒・保護者・地域の意見など取り入れるのは開かれた学校の基本だと考える。齊藤校長のもと、実行されていると思う。
			3	アンケートや学校評価の各結果を踏まえた検討の実施率90%		3	教アで、「アンケートや評価が教育目標等の改善につながった。」等の肯定的回答が80%以上						
			2	アンケートや学校評価の各結果を踏まえた検討の実施率80%		2	教アで、「アンケートや評価が教育目標等の改善につながった。」等の肯定的回答が70%以上						
			1	アンケートや学校評価の各結果を踏まえた検討の実施率70%		1	教アで、「アンケートや評価が教育目標等の改善につながった。」等の肯定的回答が70%未満						
	適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。 ○経営会議と経営推進支援部を中心に環境・設備の充実・改善を図る。	○学校経営サイクルの中で毎月、環境・設備等の充実・改善策を協議し、年度予算で対応可能なものから改修等を進める。	4	予算内で対応可能な充実・改善策の実施率90%以上	4	4	教アで、「環境・設備の充実・改善を図ることができた。」等の肯定的回答が90%以上	4	予算内で対応可能な環境・設備の充実を実践できた。教職員アンケートの肯定的回答は100%となった。また、「教職員の安全管理」に関する肯定的回答は生徒アンケートで98%、保護者アンケートで80%であった。	・校内点検等を実施し、改修の有無を区教委と検討することで、環境・設備の充実を図る。 ・来年度はプールの改修工事、校庭の補修工事、教室の壁や天井の補修工事を確実に進めていく。	A	A	・学校施設に関して綺麗に維持されていると思う。しかし、建設から50年近く経過していることから、これからが心配である。学校施設超寿命化計画のこともあるが、校庭など最低限の施設維持をお願いしたい。 ・建替も検討するべきではないかと考える。
			3	予算内で対応可能な充実・改善策の実施率80%以上		3	教アで、「環境・設備の充実・改善を図ることができた。」等の肯定的回答が80%以上						
			2	予算内で対応可能な充実・改善策の実施率70%以上		2	教アで、「環境・設備の充実・改善を図ることができた。」等の肯定的回答が70%以上						
			1	予算内で対応可能な充実・改善策の実施率70%未満		1	教アで、「環境・設備の充実・改善を図ることができた。」等の肯定的回答が70%未満						
	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える。 ○学校便りや学校ホームページ等の広報活動の充実・改善を図る。	○経営推進支援部を中心に、学校便り等の各種通信物や学校ホームページによる広報の内容や量を充実・改善する。	4	学校便り等の情報量が前年度比およそ150%以上	4	4	教アで、「各種通信物や学校HP等の内容・量が充実・改善した。」等の肯定的回答が90%以上	3	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で教育活動の様子や生徒の意見を尊重した取組の紹介をすることで、広報活動の充実を図ることができ、保護者アンケートでの肯定的回答が95%となった。	・学校ホームページの「学校日誌」や各種通信物の内容において、各学年から月に3回程度、生徒の意見を聴き尊重した取組や生徒が主体的に活躍している姿を紹介する。	A	A	学校HPについて、フォーマットが、ほぼ区内学校は同じなので、魅力が感じられない。中学校就学前の保護者や地域の方も見るので、もっと特色・魅力あるHPにしていきたい。掲載内容については現行のままが良いと感じる。
			3	学校便り等の情報量が前年度比およそ140%以上		3	教アで、「各種通信物や学校HP等の内容・量が充実・改善した。」等の肯定的回答が80%以上						
			2	学校便り等の情報量が前年度比およそ130%以上		2	教アで、「各種通信物や学校HP等の内容・量が充実・改善した。」等の肯定的回答が70%以上						
			1	学校便り等の情報量が前年度比およそ120%以上		1	教アで、「各種通信物や学校HP等の内容・量が充実・改善した。」等の肯定的回答が70%未満						
家庭・地域連携	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。 ○学校運営協議会、PTA、本中地区青少年育成委員会、学区内小学校等と連携した取組を実施する。	○前年度の連携活動の充実・改善策を各組織等と話し合い、より連携を深めた取組や新規の取組の実現を図る。	4	保護者や地域等と協力し、連携した取組の実施率90%以上	4	4	教アで、「各組織等との連携がより深まった。」等の肯定的回答が90%以上	3	運動会やかしわ祭等の行事をPTAと連携して運営する等、保護者や地域と連携を図ることができた。「他組織との連携」に関する教職員アンケートでの肯定的回答は82%であり、今後もさらに連携して教育活動を充実させていく必要がある。	・地域や保護者と連携し、情報交換をするとともに、取り組んだ活動の様子や各活動の内容、意図をさらに分かりやすく紹介して理解を促していく。 ・PTAや地域の行事に1人1回は教員が参加するように、体制を整える。	A	B	教職員と地域の情報交換が少なく感じる。働き方改革の関係は大きく影響していると思う。管理職とは会話の機会は多くあるが、もっと一般教員と意見交換をしたい。 ・地域との連携を推進していくために、地域新聞を活用するとよい。
			3	保護者や地域等と協力し、連携した取組の実施率80%以上		3	教アで、「各組織等との連携がより深まった。」等の肯定的回答が80%以上						
			2	保護者や地域等と協力し、連携した取組の実施率70%以上		2	教アで、「各組織等との連携がより深まった。」等の肯定的回答が70%以上						
			1	保護者や地域等と協力し、連携した取組の実施率70%未満		1	教アで、「各組織等との連携がより深まった。」等の肯定的回答が70%未満						
	生徒の意見や要望を把握し、教育活動の点検と改善に役立てる。 ○生徒の意見を適宜反映し、アンケートや学校評価を踏まえて翌年度の教育活動等を見直す取組を行う。	○各分掌部会・学年会等の中で、生徒の意見を尊重した取組について協議・決定し、対応策を実行する。	4	意見・要望等に関する検討・反映等が100%	4	4	教アで、「教育活動等への意見・要望等の反映が向上した。」等の肯定的回答が90%以上	4	各行事等の事後アンケートや保護者、生徒向けの学校評価を実施し、今年度の教育活動の点検と改善、翌年度計画への反映を行うことができた。校則の見直し等も、生徒、保護者の意見の反映が十分させて更新することができた。	・生徒の声を聴くことを中心に教育活動を展開し、校則の見直し等において、生徒や保護者の意見を反映させていく。 ・学校運営協議会等を通して、保護者や地域の意見・要望を把握し、翌年度の教育活動の見直しに取り組む。	A	A	生徒・地域からの意見を聞き、閉ざされた学校ではなく、開かれた学校運営を更に推進していただきたいと考える。
			3	意見・要望等に関する検討・反映等が90%以上		3	教アで、「教育活動等への意見・要望等の反映が向上した。」等の肯定的回答が80%以上						
			2	意見・要望等に関する検討・反映等が80%以上		2	教アで、「教育活動等への意見・要望等の反映が向上した。」等の肯定的回答が70%以上						
			1	意見・要望等に関する検討・反映等が80%未満		1	教アで、「教育活動等への意見・要望等の反映が向上した。」等の肯定的回答が70%未満						

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（総括）

校長が作成した学校経営方針に基づき、生徒の意見を聴き、尊重する取組を充実させたことで、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性をもつ生徒を育てることができた。また、アウトプットの徹底や個別最適な学習の充実を図り、生徒の学力向上や教職員の指導力向上を行うことができた。さらに、定期的な「いじめ・不登校対策委員会」の中で必要な対策を検討し、即時実施したことで、いじめの防止、不登校生徒への対応等を組織的かつ効率的に学校運営を行うことができた。防災教育の充実や学校の特色や魅力を地域や保護者へ伝えていくことに課題が残ったので、次年度の教育活動の改善を行っていく。